

このコーナーでは、進路指導や学習指導において心がけていることについて、読者の先生方から寄せられたコメントを紹介する。

今回のテーマ

「文理選択に悩む生徒に、どのような声掛けや指導を行っていますか」

▶ 将来の職業や学部と関連付けて考えさせる

1年生の夏休みの三者面談直前に予備面談を行っています。10年後や20年後などに何をしているか、具体的にイメージできる姿を生徒自身の言葉で説明させています。その言葉からヒントを得て、どんな道筋があるかをアドバイスを与えながら考えさせます。

1年生の最初に、これまでどんな夢を持っていたか、好きなことは何だったかなど、自分自身を振り返らせ、教科・科目の成績や就職率だけで文理を選択しないように指導している。

本校は単位制のため明瞭な文理選択はありませんが、2年次で大学受験を見据えた科目選択が必要になります。1年次6月の「総合的な学習の時間」では、「学問と仕事を考える」というテーマで、仕事と学問分野がどう結びついているかを調べさせます。また、夏休みには課題として「社会問題研究Ⅰ」に取り組みせ、今の日本、世界を取り巻く現状に目を向けさせます。これらを通じて科目選択を考えさせています。

▶ 高校の授業科目等とも関連付けて考えさせる

文理のどちらに興味があるか、好きか自問自答させるのが第一段階です。そこで答えの出ない生徒には、それぞれの先にある学部や職業を提示する方法もありますが、あまりピンとこないようです。そのような時は、例えば2年後に学ぶ「数学Ⅲ」とか大学1年生くらいの内容を話してみます。その時の気持ちの変化(わかろうとするか拒絶するか)によって、文理のどちらにすべきか、生徒自身も参考になるようです。

1年生の2学期に文理分けの希望を取る。その時点で文理を迷っている生徒には、「中間テスト(10月中旬)に向

け、キーになる科目の学習を頑張ってみて、その結果を見て決めよう」と言っている。

本校の教育課程では、理系の方が困難が伴う。看護師志望だが数学が赤点の生徒、管理栄養士志望だが化学が苦手な生徒などには「覚悟をさせる」ための声掛けも必要だと感じている。

生徒は、成績の良い生徒が理系に進学すると考えがちである。その風潮をなくすため、本校では特進クラスの担任を従来の理数系から国語の教員に変えた。

▶ 安易に選択させず進路選択の幅を広げる

本校では新課程入試への対応を含め、高校2年まで文理共通のカリキュラムにしているため、基本的に文理選択の話は高2の2学期まではほとんどしない。すべての教科が大学受験で必要になるとして学習に取り組むことの重要性を伝えている。最終的にどの学部系統に進むことになっても対応できるようにすることが進路選択の幅を広げるという指導をしている。

本校では1年生の10月に文理分けの希望を聞いています。大部分の生徒は迷わずに文理選択できていると思いますが、自分の適性などと照らし合わせて考えていないことが多いと感じます。なぜその選択なのかを、じっくり聞く必要があると思います。職業選択なども、非常に短絡的に考えている生徒が多く、その流れで文理選択をしないように指導するよう心がけています。

2年生から文理に分かれる。文転してしまう生徒も出てくるが、理系の方が幅広い選択ができるため、数学が苦手でも、基本的には理系を勧めている。